

平成30年度 植草学園大学附属弁天こども園 学校評価 保護者アンケート 結果

- ・回収率は昨年度より1%減少した。全項目の内4項目を除き評価5が昨年より若干増えている。また、5・4の合計評価も昨年度より上回っているものが多い。しかし、評価2・1も増加しているためそれぞれの項目に対し1人～20人強の保護者が何らかの不安や不満を感じていることが分かる。

I. こども園の運営および園務の遂行に関すること

- ・項目4・6・7が若干下回っている。
 - 4「遊具・用具・図書（絵本）などの整備は十分整えられていますか」に対しては、保護者からも「遊びがマンネリ化していないか」等の意見も出ていた。日々の保育のなかで環境の見直しや室内の配置換えなどを行っているが、あらたに職員間での話し合いも進められている。
 - 6「こども園の会（PTA）活動に参加しやすいですか」については、保護者からさまざまな意見がありポイントを3点に絞りアンケート調査を実施した。結果2019年度から保護者とこども園の協同的な活動として「ボランティア活動」として行うことになった。
 - 7「個人情報に関する守秘義務は徹底されていますか」については、職員の自己評価では高評価であったが、保護者はどこかしらに不安があるのかもしれない。その不安要素を知りクリアできるようにしたい。

II. 子どもの援助に関すること

- ・3「子ども一人ひとりを理解し、その子にふさわしい援助や保育をしていますか」については全体のなかで一番高い評価である。日々の保育を通し、教育・保育方針を保護者が理解してくださっていることを嬉しく思う。
昨年度とは半数が上回り半数が下回っているが（若干）この項目については全体的に保護者の評価が高い。

III. 家庭や地域、小学校との連携、子育て支援に関すること

- ・1と6を除き、昨年度を上回っている。
 - 4「保護者から寄せられた意見や要望について誠意ある対応をしていますか」については、全体評価は昨年度より高いが、十数名が何らかの不安や不満があることが分かる。原因が分かっているものもあるので改善し次に活かしていきたい。

その他保護者の意見から

こども園に移行し3年を終えた。移行当初は「保育園」「幼稚園」それぞれの歴史や保育・教育内容等に深い思いがあり新たな保育方針等をなかなか理解してもらうことが難しいこともあった。少しずつではあるが懇談会、参観日、個人面談などを通し、こども園の教育・保育について知らせてきたことにより理解してくださっている様子が見られた。しかし、まだまだ具体的な説明が足りないという意見もあるので園長の講話を行ったり掲示物やホームページ等を利用したりして教育・保育の可視化ができるようにしていきたい。

保育環境（物的環境、人的環境等）についてもさまざまなご意見をいただいた。室内環境や遊びがマンネリ化しているように見える、職員の対応に疑問を感じる等の意見もあった。職員会議、クラスミーティング、園内研修などを通して環境のこと、子どもの発達に適したかわり方などについて学んでいかなければならない。

I. こども園の運営および園務の遂行に関すること

- ・ 1 「管理者のリーダーシップについて……」については、昨年度より下回っている。時折管理者不在ということもあるが、それをカバーできる人材を育成することも必要である。
- ・ 2 「……園務分掌が適切に機能するように運営していますか」については、一人ひとりが自分の役割や責務を自覚し遂行していくこと、また、職員同士がお互いを理解し協力し合いながら行っていくことが大切である。
- ・ 3 「……資質の向上のための研修に組織的に取り組んでいますか」については、皆が研修に参加できるように年度初めに計画はしていたが、園務の関係上後半は参加が少なくなってしまった。体勢を整えること、職員自らが積極的に研修に参加できるようにしていきたい。
- ・ 5 「遊具・用具・図書（絵本）などの整備は十分整えられていますか」については、今回の評価で一番低い評価となった。保護者アンケートの評価は低くはないものの、保護者から環境についての意見が出たのは職員の困り感も多少影響したかもしれない。職員も日々の保育のなかで見直しや話し合いなどを行っているので、あらたに問題点を洗い出し保育環境を整えていきたい。
- ・ 11 「保護者はこども園の会に参加しやすいと思いますか」については、5・4評価よりも2・1評価の方が高い。保護者にもアンケート調査を実施したところ保護者の立場にたって考えたりコミュニケーションという観点から考えたりといろいろな意見があった。2019年度からは保護者とこども園の協同的な活動として「ボランティア活動」として行うことになった。

II. 子どもの援助に関すること

- ・ この項目に対しては、評価は低くないものの5を除き全体的に昨年度より下回っている。2・1評価も他に比べると高くなく職員一人ひとりの謙虚さが出ているのかもしれない。自信を持って保育に取り組めるように職員会議や園内研修で話し合ったり外部研修に参加したりして資質の向上につなげたい。

III. 家庭や地域、小学校との連携、子育て支援に関すること

- ・ この項目に対しては、1・3を除き昨年度より上回っている。1・3もそれほど低評価ではない。IIと同様に職員自らが自己研鑽に励み、取り巻く社会のなかで子どもたちにより良い教育・保育を提供できるようにつなげたい。

IV. 保育教諭要請大学附属園としての使命

- ・ この項目については若干昨年度を上回っているものもある。昨年度と同様非常勤教諭が多く、直接的に大学短大と関わることは少ないが、実習生や他の附属園との合同研修等で附属園職員としての意識が変化しているように感じる。
各自の研修会や研究会への参加はいろいろな面で保育の場に活かされているので保育力は高まっていると思う。